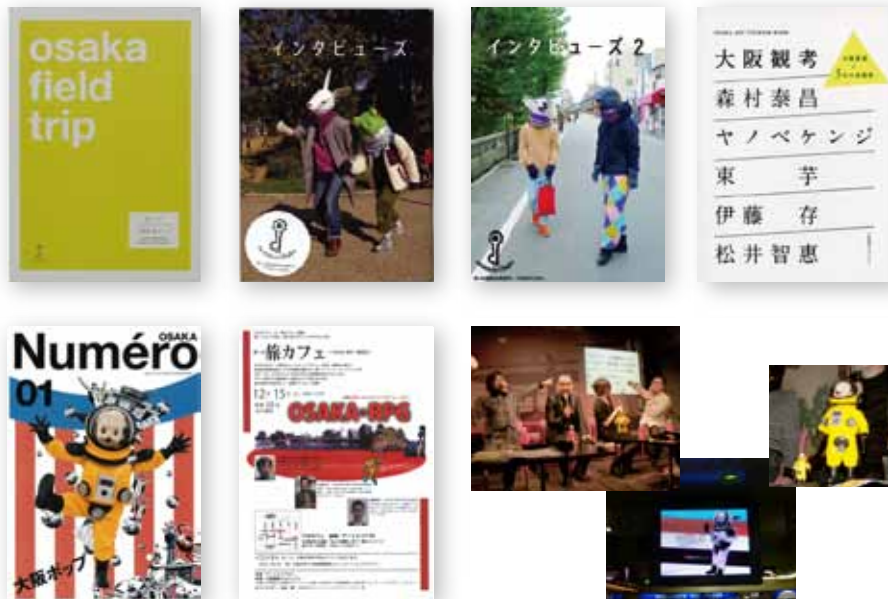


# 大阪旋風プロジェクト 実施報告

大阪ならではの様々な魅力を探り・発信することで、新しい都市イメージを定着させることを目的に 2008 年 12 月からスタートしたプロジェクトです。大阪大学コミュニケーションデザイン・センター、クリエイター、編集者、大阪市、大阪観光コンベンション協会が連携し、官・民・学が協働で取り組みました。トークイベント等、プロセスそのものを公開しながら、最終的には4つのビジュアルファイルが完成。今後は、これらのビジュアルファイルを使って、多くの方々に新しい大阪魅力探しの旅をしていただきたいという願いをこめて、プロジェクトの歩みを報告します。



## 大阪旋風プロジェクト 実施事業

平成 20 年度

東京でのキックオフイベント実施

大阪でのトークイベント実施

大阪旋風プロジェクト HP 配信

平成 21 年度

NUMERO 東京 別冊

『NUMERO OSAKA』協賛

大阪大学学生による RPG 実施

旋風プロジェクトブログ配信開始

ビジュアルブック access to osaka  
企画及び発行

osaka field trip 日本語版発行

同上発行 PR イベント実施

トークイベント開催

インタビューズ発行

平成 22 年

osaka field rip 英語版発行

osaka field trip tour 実施

インタビューズ2発行

ART TOURISM BOOK『大阪観考』発行



## 3年間の活動を振り返って

狭間恵三子

(財)大阪観光コンベンション協会 情報発信担当部長

大阪旋風プロジェクトで、官・民・学から集まった9名の想いを繋ぎ、引っ張ってきた狭間恵三子。彼女が、このプロジェクトを、そして大阪を、どのように見て考え、歩んできたのか。様々な質問を投げかけた結果、これからの大阪に必要なことは、大阪の「人」ひとりひとりが、新しい魅力を発見し、それらを繋ぐ「糊」になる、ということでした。

—改めて、プロジェクトの目的をおしえてください。

大阪旋風プロジェクトは、大阪の固定的なイメージを無くし、一度まっさらにする事で、「新しい大阪を発信しよう」というイメージアップのためのプロジェクトの一つで、まだイメージを固めていないであろう若い世代に向け、様々な組織や立場の人と共に進めていくことを目的としていました。プロジェクトメンバーに入っていた理由は、大阪大学コミュニケーションデザインセンターは、一方的に教育をするというだけでなく、外部とのコミュニケーションを取ることが大事であると考えておられたということがあります。専門家と一般市民とが、インタラクティブに話し合い、問題解決に向けて議論する双方向型のコミュニケーションを目指されています。また大阪大学は、かつて大坂の商人たちが設立した学問所「懐徳堂」を引き継いでおり、市民と大学がともに学ぶ場として21世紀懐徳堂をつくられました。そういったこともあり、ぜひこのプロジェクトに参画していただきたいとお願いしました。さらに、実際に街場で新しい魅力を作り出している人にも入っていただきたいということで、クリエイティブ集団 graf の代表である服部滋樹さん、すでに多くの情報を発信しているプロとして京阪神エルマガジン社の蔵均さんにも加わっていただきました。



これまでマスメディアが目撃してきた大阪は、いつも決まっておなじこと。たこ焼き、お笑い、道頓堀、通天閣、関西弁…。けれども、ステレオタイプな大阪のほかにも、大阪の魅力はあるはず。それなら、今までと違った視点で、探してみようよ。探しててた「大阪」へのアクセス方法を、さまざまなかたちで伝えていこうよ。そんな想いで生まれたプロジェクトが、access to Osaka。ここから、新しい大阪とつながっていきます。



—どのような内容の活動でしたか？

最初は、「そもそも論」から始めました。大阪とは。大阪の新しい魅力とは、そもそも何なのか。果たして誰がそれを言えるのか。誰も確信を持って語るなどできないではないか。そういった議論を踏まえ、私たちが新しい魅力を探し出すプロセスそのものを順々に公開していくことによって、それをご覧下さった方たちも一緒に発見していってもらうというプロジェクトにすることに決めました。そのため、立ち上げのイベントをわざわざ東京の六本木で開催し、大阪の魅力を探しに行ってくださいという内容のサイトを作りました。その後も様々なプロセスを経て、結果的に4冊の本というカタチへと繋がっていきました。「協働」は今のキーワードですが、最終形が見えないままスタートさせ、価値観もミッションも仕事のやり方も違う人たち、つまり「民」と「学」と「官」がゼロベースからフラットに協働することは、かなり画期的な実験であり冒険でした。税金を使わせてもらっている責任、ということも常々考えていました。本に関しては、公共性があるか、ということも考えながら進めていました。最初は観光から少し遠いかなと思っていましたが、今、観光の捉え方、ニーズも様々です。本をみて大阪に行きたくなくなったという感想もいただいていますし、最終的には小さいながらも大阪のまちにとって、とても意味のある活動になったと思います。

—活動から発見された大阪の新しい魅力とは何ですか？

最初から、大阪の魅力は「人」であるという仮説は立てていました。そして、「つながり」。人によるつながりがとても軽やかで強い街だと言え、それを紡いでいる「人」が魅力。とはいえ、人が魅力といっても、何をわき立たせればよいのか。そのプロセスとなったのが、成果物としての4冊の本です。大阪のまちに暮らし、働き、遊び、ゆるやかなネットワークを街場で楽しんでいる、そのライフスタイルが個性であると考えました。そこで、我々の身近な人たちの生活を通して、つながりとオリジナリティを創出したのが『osaka・field・trip』です。大阪の人のある種のユニークさや懐の深さみたいなものを、我々の身近な人たちの生きた言葉を聞き出すことでわき立たせたいという想いから作ったものが『インタビューズ』。そして、大阪に縁のあるアーティストによって大阪のまちの魅力を再編したのが『大阪観考』です。これらを通して、「人の魅力」と、人々の活動の場である「まちの魅力」がにじみ出たのではないかと思います。



—読んでくださる方に期待されることはありますか？

最も観光から離れていると思われがちな『インタビューズ』を読んだ東京の知人から、「すごく、おもしろいまちだったんですね。行ってみたいくなりました」というメールを何通もいただきました。おもしろい、というのは、有名人ではない普通の人による何気ない日常のやりとりがおもしろいということです。しなやかに生きる人々に強烈なインパクト、あるいは共感を得られたから、メールを下さったのだと思います。神戸にお住まいのご高齢の方からも「インタビューズ2を手に入れたが、ぜひ1も欲しい」というお電話をいただいたことがあり、世代を超えて何かが伝わったと感じた瞬間でした。

すべての人の共感を呼ぶとは思っていませんが、これだけたくさんの人に出ただいたので、ふと共感できる部分はどなたにもあると信じています。また、こんな人もいるし、こんなまちもあるし、こんな生き方もあるから、元氣だしてよ、という励ましでもあります。多様な価値観の中で迷っている若い人にとってはとても意味のある本だと思います。

4冊の本を通してにじみ出ている、大阪の「人」や「まち」、「環境」に呼応して、大阪に行ってみようかな、大阪で暮らしてみようかな、大阪で何かやってみようかな、という想いに繋がることを期待しています。きれいな部分だけでなく、まちの中の様々な部分を表に出したということも含めて、それを許容し、包摂している懐の深いまちなんだ、ということも知っていただきたいですね。

—新しい魅力を発見できた今、さらに望まれることはありますか？

今は、強力なプロデューサーがひとりで引っ張り、大きなムーブメントを起こせる時代ではなくなり、様々な価値観や考え方をきちんと議論し、合意や反論をまとめながら物事を動かしていくようなリーダーが求められています。一方、誰かと繋がりたい、年代の違う人と繋がりたい、話を聞いてみたい、といったコミュニティの再生に向かっている機運もあると思います。今回のプロジェクトで見えてきた大阪の魅力をひとつの契機として、この魅力をそのまま受け継ぐ、というのではなく、若い人たちが「僕らはこれがおもしろいんや」と思っていることを自由に出していただければいいと思います。今回のプロジェクトがひとつの起爆剤になり、自分たちで新しい魅力を発見するというムーブメントになってほしいと願います。私たちプロジェクトメンバーも、様々にかかわって下さった方々も、新しい魅力と魅力を繋ぎ合わせるつなぎ手＝「糊」になっていくことができればいいと思います。このプロジェクトがゴールではなく、これら成果物が出来て、初めてスタートラインに立てたと思います。みなさんと一緒に、つなぎ手としての「糊」になって、ムーブメントを広げ、新しい大阪をつくり、その魅力を発信していきたいですね。



## 各委員からのコメント (50音順)



荒木 基次  
大阪大学二十一世紀徳徳堂  
特任研究員

access to Osaka に関しては、このプロジェクトのテーマである若い人々が活躍してくださって、このような成果となりました。

私はかねがね、かつての大阪万博のように、日本を巻き込んでおもしろいことをやろうという力や、連携力、プロデュース力が大阪は落ちたのではないかと考えています。そこで、(大阪観考で、心齋橋空想美術館というテーマで森村さんとの対談に出ておられる) 橋爪節也さんと、地道に草の根的に大阪の良きところを訪ねる「街歩き」を小規模ながら行っています。大阪が持つ本来の魅力がなかなか多くの人々に知られていなく、知る人ぞ知るということで終わっていることに焦燥感を感じてのことです。もっと本来大阪が持つ魅力に気づく仕組みを、官民ともに作って行って欲しいですね。そうすればもっと若い人も大阪の魅力を楽しめると思います。



木ノ下 智恵子  
大阪大学コミュニケーションデザイン・センター  
特任准教授  
『大阪観考』企画監修担当

大阪のイメージアップに寄与するキャンペーンを実施するというので、お話をいただいた。猿としたお話ではあったが、3年間というタームで実施できるということであったので、お引き受けしました。そこで、まずはキックオフイベントを実施し、「大阪しい＝大阪らしい・大阪ならではの」という言葉を出していただき、それを体現するために対話を重ね、トライ＆エラーを繰り返しながら、3テーマの媒体という成果物を残すことになりました。これは稀有なプロジェクトであり、観光面だけでなく、文化面の観点からでも、新しい提案ができるものとなったと思います。官・民・学が連携し、協働することは、新しいものを作り出す原動力になり、可能性を生み出す根拠になる。すべてにおける次のステップへのコミュニケーション術を実践できたのではないのでしょうか。そして、大阪の資産は、人である。これは、世界にも発信できると確信できる結果となりました。



久保田 テツ  
大阪大学コミュニケーションデザイン・センター  
特任准教授  
『インタビューズ1』『インタビューズ2』企画担当

この媒体『インタビューズ』を行政からよく出せたな、ということを作っておきながら思います。それに対する驚きと称賛の声を周りからもいただいています。これまでの大阪の固定されたイメージ以外を真面目に考える時には、ある種の制約は突き抜けざるをえないことでもありました。今回、それを実践したことに爽快感を持っていますし、プロジェクトメンバー各位、大阪市、大阪観光コンベンション協会に感謝する次第です。すべてにおいて、大阪という土地の懐の深さを体現しているすばらしいプロジェクトでした。今後、地域文化を広く伝えようとする時、こういった取り組みは間違いなく効果があると思います。これからも、普段では表に出ないような既存概念を取り払ってくれる人々たちを、恐れずに掘り下げてもらいたいと思いますし、そういった取り組みが地域を活性化すると感じています。



金水 敏  
大阪大学コミュニケーションデザイン・センター  
センター長  
大阪大学大学院 文学研究科 教授

各種プロの目線が関わっている中で、大学の役割は、ある種の異物感であったように思います。どこにも所属していない。ふわふわしているようで、考える時はとことん考える。採算に乗らない、行政目線から外れたものでも、まるごと引き受けてカタチを与えることができるのは大学の役割だと今回の活動を通じて認識しました。そうやって出来たものは、やはり異物。とてつもない異物が産み落とされた。かわいい異物、かわいくない異物、気持ち悪い異物。そういう異物を生み出すことができたのは、大学が参加した値打ちであると考えます。異物はゴロンと存在が残り続ける。本がなくなったとしても、記憶に残る。扱いに困る程度の変な物ができてしまったことは、すごい資産。大阪でなければ生み出せなかった資産です。この資産を大事にし、より育ててほしい。そのエネルギーを拡散してほしいですね。

## 各委員からのコメント

---



蔵 均

(株) 京阪神エルマガジン社  
『Meets Regional』 編集長  
『osaka field trip』 企画監修担当

今回のプロジェクトは、行政の方が関わる仕事としては、かなり画期的だったと言えます。編集者の立場から成果物である本についていうならば、実は、行政の方が作られる本やパンフレットをいつも肯定的には見ていませんでしたが、出来上がった4冊は、これまでを突き抜けている。結構思いきった、旋風という名にふさわしいものになったと思います。これからも、このような発信を続けていけば、大阪の個性がもっともっと際立っていくのではないのでしょうか。

---



服部 滋樹

graf 代表  
『osaka field trip』 企画監修担当

観光とは、信頼できる人から情報を得て、その土地とつながっていくこと。『osaka field trip』では、僕らが暮らしているコミュニティを紹介できたことで、それを実現でき、満足いくものになりました。本を持って鞆公園周辺や中崎町周辺を歩いている人、又、英語版を持ったアジアの人たちも見かけますが、その人たちへ、「大阪にもほんわかしたコミュニティがあるんやで」ということが伝わったのかな、と。今後は、多くの視点が加わっていけば、多種多様な大阪の魅力をもっと知ってもらえることになるので、さらに新しい視点を出していくことが必要なことですね。



西迫 登

(財) 大阪観光コンベンション協会  
プロモーション担当部長

今回、素晴らしいプロジェクトに参加させていただけたことに感謝申し上げます。これまで自分の切り口で大阪観光を語ってきたつもりですが、3種類の全く違う切り口で語る人たちの能力は凄すぎました。今は、その能力に近づき、新しい切り口で大阪をプロモーションできるように、じっくり読み込むなどして精一杯努力している最中です。とはいえ、4冊を同時に読んでもらうと、きっと誰もが、自分でそこから新しい観光を楽しんでいただけることは確実です。今後、一番大切なのは、これが遺産となること。そして、遺産として埋めてしまうのではなく、次の世代のメンバーが切り口を出し合っていくことです。

---



花田 公絵

大阪市ゆとりとみどり振興局  
観光担当部長

国内においては、「イメージアップ」、海外に対しては、「知名度の向上」という想いからはじまったプロジェクトです。では、どういうイメージでいくのかを多くの方と話せば話すほど確定できない。そこで「なんでもありの大阪というのが、大阪ですよ」ということを売っていくことにしました。首都圏の若い人たちに、新しい大阪を知ってもらおうと、彼らのことを理解しているであろう方たちの力をお借りし、試行錯誤しながら進めてきて、幸いにして、成果物ができあがったことは嬉しく思います。4冊をセットにして大阪のいろんな魅力をアピールするために、引き続きプロモーションをしていきつつ、今後とも多くの方のアドバイスをいただきながら、新しい大阪の魅力を発信し続けていきたいと思っています。

## 読者からの反応



<osaka field trip>



<インタビューズ>

[gallery&store 黄金舎] ギャラリー・洋服・雑貨 神戸市

正直、うらやましいですね。  
神戸も行政ともっと協力して、こんな形で街を盛り上げていく新風が吹いて欲しいなと思いました。  
デザインもほんとに素敵で、神戸の雑貨好きさんも手元に持っておきたくなる一冊ではないでしょうか？  
しおりもかわいい！

40代 豊中在住 編集者

『インタビューズ』は、仕事そっこのけで読みそうになるくらい、ヘンでおかしくて、おもしろかった。ヤスデ 80 匹飼ってるといふ池内さんとか、家賃が破格値でボロボロの長屋を自分でいろいろさわって住んでる（彼女にはお化け屋敷みたいと言われてると）コンタクト・ゴンゾさんとか…こういう人が大阪にいるんだなあと思うだけでも、なんかほっとする。

[SUR bien sur] 雑貨 松山市

普通の「観光」ブックとはちがいます！  
今までに無い新しい観光ブックです。  
出張や旅行に行くとき、是非！持って行って欲しい！！  
ここ行ってみたい！こんなお店あるんだ～！  
今度行ったら・・・絶対こう！  
そう感じる本です。  
まだ行けなくても、見て、読んでるだけでもたのしい気持ちになります。  
そんなこだわりのブックです。

60代 女性 奈良 主婦

「わかっている人に教えてもらう」  
ほんとうに大事なことです。いくつになっても、教えてもらわなければ。丁寧に書かれていてよくわかります。次号を楽しみにしています。

[Cache (カシェ)] ヘアサロン 大阪市

普段、お客様とおすすめスポットの話題になる事があるのですが、スタッフがよく行くカフェや雑貨屋さんが載っていたり、あんな所でこんな事が！！という新発見があったり。  
かなりアツイ一冊になっています☆  
大阪旋風プロジェクトってご存知ですか？  
私は、この本で知ったのですが、新しい大阪のイメージを発信するとても素敵なプロジェクトが昨年から行われているようで、この本がヴィジュアルブックの第一弾になっています！！

30代 女性 京都 学生

大阪にはたくさんおもしろい人がいるとよく聞いていました。この本を読むと本当にそうだと思います。なんとというか、またおもしろい人を読んでみたいと思いました。

[sample] カフェ 奈良市

人も街も動いているんだなあ。  
しばらく大阪いかないうちに、またなんかおもしろそうな感じになってる。

20代 女性 横浜在住

生きにくさをどうこえていけることができるか、生きにくさってそもそもなんなのか、実はそういうことを話す場も、考える材料も、そして教えてくれる人も少ない。この本は貴重だと思いました。

40代 女性 大阪 フリーランス

この本は、読んでみるといろいろ考えること、思うことがあり、まちにはおもしろい人がいっぱいいるのだと思いました。そんな人たちに会いたいし、自分もそんな出合いをたくさんつむいでいく場や機会をつくりたいと思います。

## 読者からの反応

### <osaka field trip>

#### BLOG [築港会議] より

『るぶ』や『〇〇ウォーカー』など、街の紹介本は多々あれど、編集の視点が変われば、その内容もずいぶん変わってくるものです。

都市圏はいいとして(?)のごごろ、地方都市の活性化(乱暴に言うとも、住んでいて面白い)をよく考えます。

編集という視点は、きつとすごく大切だと思うし、人がうまく結びつく場所とか仕組みが重要なんだと改めて思う。

#### BLOG [Relax ゆるゆるな日々] より

食べ物はご当地ならではの魅力があって、お取り寄せができる昨今だけでも、取り寄せができないことが反って魅力になっていることがある。

そういうのが本の場合もあって、特にこの本は「大阪の隠れ家」的な一冊だと思う。

クリエイターの方々があちらこちらで肩の力を抜いたようなシンプルスタイルを展開しているような。

お洒落すぎず、野暮すぎず。

大阪の良い面を映し出しているジモピーもびっくりな発見本です。

#### BLOG [まねえもの彷徨] より

観光という視点だと、他の地方や海外からの訪問者の目線での取材編集が為されるのが常だと思うのですが、「osaka field trip」は、大阪に住んでいて、もっと大阪の町を使いこなそうという人向けに作られたような気がします。

外からの訪問者向けであれ、大阪在住の人向けであれ、いわゆる“大阪本”は、人情や猥雑感を強調した情緒的なものが多いのですが、「osaka field trip」はそういった臭みが無く、3日休みがあるとさっさと東京へ行ってしまふ私のような大阪嫌いの大阪人(実は意外にいます)にも、楽しめる内容でした。

#### BLOG [ライト兄弟] より

その土地を盛り上げることは、そこにしかないものを探求して、「価値」にすることなのかなと思っています。

アイコン化されたイメージをもう一度見直す。

さまざまなジャンルのクリエイティブが集結しています。

大阪の人にこそ読んでほしい。

### <インタビューズ>

#### 50代 男性 大阪

これからの時代をどう生きて行くか、いまみんなが考えて行かねばならない時がある。こういうみんなが取り組んでいる事は、いろんな意味で良い影響をもたらす。いま忘れてしまった人との絆、つながり、もう一度思い起こし和の精神を持ちたい。この本を読んでそう思った。微力でありながらも、やらなければ正しい事は勇気をもってやる。

#### 30代 女性

この本が、社会(みんな)のおかねでつくられているというところがとても良いとおもった。

#### 東京在住

とにかく、びっくりしました。こういった雑誌が、広告なしで無料で配布されているという事がすばらしいというかうらやましい。

#### 40代 大阪市在住 自営業

「大阪の人は面白い」とよく言われます。でも、関西弁でボケてつまむのだけが面白いではありません。ヘンなひとが「ふつう」にまちにとけこんで、根をおろして生きている。やりたいことをやりながら、ひとやものを大事にする。大阪の人が面白いというよりも、ひとや人生が面白いのだということを、じんわりと温かく伝えてくれました。ふとこころ深い大阪をじっくり歩いてみたくなりました。

#### 20代 女性 大阪 NPO スタッフ

こういう生き方をしてもよいのだ、ということ、改めて教えられた本です。こうするのが正しい、しあわせだ、というような、働き方、生活の仕方、生き方がどれだけかたよっているか、普段どれだけそれを強くおしつけられているか、を知ったような気分です。もうひとつの、「あなたがわたしが選ぶことのできる生き方」をちょっとみせてくれる本だと思います。みなさんすてきです。